

## 臨床実習中に理学療法学生が明らかにした倫理的問題

進藤伸一

秋田大学医学部保健学科

**目的：**臨床実習で、ほとんどの学生は倫理的問題に頻繁に遭遇し、それが学習に影響を与えているといわれている。本研究の目的は、臨床実習中に理学療法学生が遭遇する倫理的問題を明らかにすることである。

**対象と方法：**対象は、マックマスター大学理学療法学士課程 1 年次第 3 学期で実施した 6 週間の臨床実習に参加した学生 56 名(男 10 名, 女 46 名)である。学生は、臨床実習で経験した重要なできごと、その経験から学んだこと、そして今後どのように生かしていくかについての反省記録(reflective journal)を、週 1 回の割合で 5 週間にわたり書いた。6 週目に、3 人の理学療法教員が Coffey ら(1996 年)による質的分析法を用い、Geddes ら(1999 年)による倫理的問題のカテゴリに沿って、その記録を分析した。

**結果：**倫理的問題を記録の中で指摘していた学生は、56 名中 53 名であり、全記録 280(56 学生の 5 週間分)のうち 181 記録に倫理的問題が含まれていた。倫理的問題の 3 つの主要なテーマは、①個人の個性の尊重(37 名, 70 記録)、②専門職業意識—専門職の一員としての責任と行動(25 名, 42 記録)、③専門職同士の関係—他の理学療法士や保健専門職への敬意と相互協力(25 名, 35 記録)であった。副次的なテーマとしては、④資源の配分(13 名, 18 記録)、⑤依頼者の擁護や社会/保健政策(8 名, 8 記録)、そして⑥インフォームド・コンセント(6 名, 8 記録)などがあつた。つまり、臨床実習で学生が頻繁に記録した倫理的問題は、学生とクライアントや理学療法士との人間関係、そして理学療法士になるにあたっての役割の探求に関連したものであつた。

**結論：**以上の結果から、理学療法カリキュラムの編成にあたっては、①倫理的意思決定の方法、②倫理的意思決定と臨床的意思決定の統合、そして③本研究で明らかになった 3 つの主要なテーマを取り上げるべきであろう。

Geddes EL, et al : Ethical issues identified by physical therapy students during clinical placements. *Physiotherapy Theory and Practice* 20 : 17-29, 2004

## 頸椎の徒手療法前評価の再考と改訂、新しいクリニカルガイドライン

初山日出樹

秋田大学医学部保健学科

**目的：**オーストラリアの筋骨格系理学療法協会(MPA, Musculoskeletal Physiotherapy Association)のメンバーを対象として、CM(cervical manipulation)を行うにあたっての頸椎の徒手療法前評価の再考を目的とした調査が行われた。調査内容は主に CM と PM(passive mobilization)の使用率、APA(Australian Physiotherapy Association)プロトコルの診療記録への記載と整合性、CM の悪影響発生率、CM 使用前の同意と情報提供の有無についてであった。

**方法：**調査票は 740 人のメンバーに郵送され 480 人(65%)から回収された。

**結果：**CM は現在臨床にいる 419 人中の 84.5%で、PM は 99.8%で使われていた。回答者の 63%がプロトコル内容を支持していた。CM の悪影響は 1,000 年間の実行(あるいは 0.003/週)に一度の割合で生じていた。最も多いのは合併症のない VBI(Vertebro-Basilar insufficiency : 椎骨脳底動脈循環不全)で潜在的に関連していた。回答者の 37.1%だけが常に CM の潜在的な危険に関して患者に通知し、同意は回答者の 33%がすべての場合で得ていた。

**考察：**プロトコルの使用と解釈はメンバー内で定まっていなかった。CM を含む徒手理学療法による悪影響は非常に低かった。プロトコルの改訂は、調査および診療記録の報告結果に基づいて作成された。VBI テストに関連する論文の調査から、CM の悪影響は頸部の可動性と徒手のテクニックと関連した。VBI の特徴はめまい感(dizziness)と関連し、めまい(vertigo)は、内耳迷路障害によるめまい BPPV(benign paroxysmal positional vertigo : 良性発作性頭位目眩症)と関連していた。そして目下の問題はインフォームド・コンセントの実施率の低さにあつた。今回の調査結果によって VBI テストなどを用いて、頸椎に対する徒手療法の可否について判断する重要性を再確認できた。

Magarey ME, et al : Pre-manipulative testing of the cervical spine review, revision and new clinical guidelines. *Man Ther* 9 : 95-108, 2004